

ほろゆめん

303 同級生



大崎短歌会

兼題「自由」

- 荒庭で蜥蜴はしるを見て遊ぶ
三人の稚児も今益荒男に
目尻下げやさしき笑顔安倍元首相
永遠の別れや無念の猛暑日
歩行器に囲まれて歩くまあいわば
小さな牢屋の一人住みです
遠き日の義母のやさしき梅干しの
味思いつ手仕事の時期
亡き夫と旅に求めし江戸風鈴
目で聞き涼む耳悪さわれ
ピラミッドの形に立てる杉木立
吸われゆくがに流星は消ゆ
- 実吉安仁
坂元つる子
原田葉子
井元かず子
穂園芳江
山下海征

薩摩郷句

兼題「道具」

- 「ゆうさく」と呼べばむっくり起き上がり
我に寄り来る子牛優作
ゆふゆふと大海巡る遊魚なら
砲弾避けていく道あらんか
馬場みさ
- 古り道具き 農作業の難儀が 沁ん込じよつ
(唱) 黒光ゆした 柄が物語つ
遠矢耐多
- 治療室の 道具き逸った 臆病者
(唱) 早よ帰る言て ぶるぶる震つ
諸木小春

敵ね女房い かのわじ道具き 当い亭主
(唱) 其処辺の品物 蹴い飛ばかせつ
上窪小絵

三日坊主 良か道具かまた 塵の中
(唱) 使こもせんこち 金な使け放題
満石うらら

倉庫いな コメリよつかも 多け道具
(唱) 店を開けち 皮肉い女房
長重リリー

嫁入いの 道具が沢山 玉ん興
(唱) ひつ吃驚た 金も要つたる
西ノ園ひらり

二階しあつた 姑ん道具き 守らえつ
(唱) 道具く大事じしつ 感謝で暮れつ
諸木美舟

お寺参い 道具か数珠じゃち 祖母ん教え
(唱) お布施もちやんと 包んだか言つ
北村虎王

道具箱で 腕を見込んだ 師匠ん勘
(唱) きちつしちよつで 間違は無かる
藤元鬼瓦

道具か良が 中途で投げ出た 日曜大工
(唱) 何時もこいじゃが 歯痒いか亭主
上村牛歩

高け道具く 自慢を言かたで 使わん爺
(唱) 見せぶらかせつ 喜くじよつたる
二見愚楽満